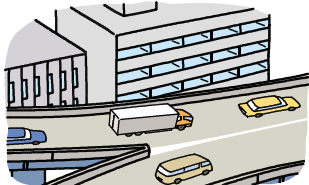




ちくさ咲く みち



しろつめくさ



ふ べん え き 「不便益」を知っていますか？

校長 花生 典幸

夏休みが明けて、最初の出校日である8月24日（木）の朝、休み中に仕上げた宿題をかかえて、子どもたちが次々と登校してきました。

一人一人の元気な笑顔とあいさつに接し、それぞれに充実した夏休みを送ることができたことがわかり、うれしく思いました。

この夏休み中、子どもたちに大きな事故・けが等がなく、全員健康で無事に過ごせたこと、ありがたく思っています。保護者・地域のみなさまのご指導やご支援によるものと、心より感謝申し上げます。

さて、みなさんは「不便益（ふべんえき）」という言葉を知っていますか？
「不便益」とは、一言で表すなら、“不便は手間だが、実は役に立つ”ということです。

たとえば、最近バーベキューをする人が増えてきていますが、野外でバーベキューをした場合、準備や片付けにいちいち手間がかかるといった一方で、材料はいつもと変わらないのに、なぜかいつも以上に美味しく感じたり、会話が弾んだりといったことが起こります。

また最近、若い人たちの間で『写るんです』の人气が再燃しているとのことですが、粗い画質で、限られた枚数しか撮れないそのカメラの、スマホの写真にはできない独特の世界観が表現できる点がアピールポイントになっているとのことだそうです。

不便から生まれる利益……この不便益を考えた第一人者は、京都大学でデザイン学を教える川上浩司教授。川上先生は、世の中の「不便益」なモノやコトをいろいろ探してみたそうです。すると、意外にもたくさん事例が見つかりました。

- 全国の幼稚園や保育園の中には、あえて園庭を平地ではなく、デコボコにつくっているところがある。

川上先生 談「平地だと、大人が子どもを管理しやすいし、園児が転んでけがをするリスクが減ります。しかしあえてデコボコにすることによって、子どもが遊び方を工夫するようになります。実際にそこで遊んでいる子どもたちの表情も生き生きしてくる印象です」

- 高齢者施設は、バリアフリー設計が基本だが、そこにあえて段差や階段を設ける「バリアアリー」の施設も出てきている。

川上先生 談「段差などがあることによって、日常生活がちょっとした訓練の場になります。高齢者にとっては、身体能力の維持になるというだけでなく、心の張りが保たれることも期待できます」

今の社会には、「便利」や「最短」「効率」といったことを求め、それを実現できる場所に価値を認める、そんな風潮が少なからずあります。

けれども、不便があっても、あらためて気づくことや、不便だからこそ、それを乗り越えることに意味や価値があるといった面も、真理として確かに存在しています。

“不便益の価値”に目を向けて、子どもたち（便利に慣れ過ぎている子どもたちがたくさんいる昨今）と一緒に考えてみるのもおもしろいかもしれませんね。